

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 春日井市立知多中学校 】

1 実践テーマ	【 III・V 】 (学校テーマ) オリンピック・パラリンピックを通じたまちづくり
2 実施対象者	春日井市立知多中学校 第1学年 170名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間・学級活動) ② 行事名 (教育講演会・あすチャレ! School) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック、パラリンピックを通してスポーツへの興味・関心を高めるとともに、パラスポーツを体験したり、パラリンピアンとの講話を聞いたりすることで、障がいのある方との共生について考えるきっかけとする。 また、それらの視点で住むまち春日井を見て課題を見付け、解決の方法を考える「よりよいまちづくり」をしていく。
5 取組内容	(1) <事前学習>春日井市の現状と課題を知る学習 近い将来人口が減少し、少子高齢化が進む春日井市が、どのような政策を行っているのかを知る(春日井市総合計画)。その政策分野の柱の1つに「市民活動・共生・文化・スポーツ」があることを知る。 (2) 「I'mPOSSIBLE」を活用した学習(教材1-1・4・5) ・ オリンピック・パラリンピックの歴史や意義について ・ 公平性についての学習 ・ パラリンピアンの日常生活からバリアフリーを考える学習 (3) パラスポーツ「ボッチャ」体験 (4) 教育講演会① 地域の義肢装具製作所の方に、企業理念や、障がいの克服やパラスポーツの発展を支える義肢装具のこと、障がいのある方との共生にむけてまちに必要な取組を教えていただいた。

(5) 「あすチャレ! School」 講師：永尾嘉章氏

パラリンピックやパラスポーツの紹介、レース用車いすの体験、永尾氏が逆境をどのように乗り越えてきたのかという講話を通して、パラスポーツについての理解を深めるとともに、逆境に負けずあきらめないことの大切さを学んだ。



(6) 教育講演会② 講師：江崎駿氏、江崎泰秀氏

地元出身で、東京パラリンピックにも出場が内定しているボッチャの江崎駿氏と、父でありボッチャコーチの江崎泰秀氏より、講話や体験を通してボッチャの魅力や楽しさを教えていただいた。また、私たちが障がいのある方とどう関わっていくとよいかを学んだ。



(7) <事後学習>よりよいまちづくり案を考える

「障がいのある方との共生」「外国籍の方との共生」「スポーツイベントを通じたまちづくり」「パラスポーツの普及」という4つのテーマで班ごとにまちづくり案を考えた。講話や学習の中で学んだことに、インターネット等で調べた先進的な取組を加え、どのような取組を行えばまちが活性化するのかをまとめ、発表した。

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • 「I'mPOSSIBLE」から各種講話まで、計画的に学習を進めることができた。体験やアスリートらによる講話では、いきいきと学びに向かう生徒の姿が見られた。 • ボッチャについては、体験を行うごとに楽しさが分かり、生徒らにとって身近なスポーツになった。12月に行われた学年レクでもボッチャが種目に選ばれるなど、浸透してきている。 • パラスポーツの一覧を掲示したところ「ボッチャ以外のパラスポーツも体験してみたい」という意見が生徒から出るようになった。 • 2021年に延期になった東京オリンピック・パラリンピックのことや、愛知県で2026年に行われるアジア競技大会のことなど、スポーツイベントのことが話題にあがる機会が増えた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピックをどこか遠くで起こることではなく自分事として捉えるため、どのように身近な問題と絡めていくのかを考えた。世界規模のイベントとしての大きな問題として捉える部分とは別に、地元の企業やアスリートに御協力いただくことで春日井市にも関連する問題として捉える部分を設定できた。 • 本物に触れることでより学習が深まると考え、あすチャレ! School や講話会などの機会、実際に体験する機会を多く設定することができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 学びの方向性に合致した講師の確保が難しい。 • 今年度は延期された東京オリンピックという、間近に迫った関心事があったため、生徒も意欲的に学習に取り組むことができた。来年度以降、学習の導入部分として何をを用いるとよいか、考えていく必要がある。 • 8月～12月という長い期間1つのテーマで学習が行えたのは、今年度コロナ感染症の関係で例年行っている学習が白紙になったことが大きい。例年行っている学習の中に、今年度のような取組をどのように当てはめていくのか、年間計画の段階でしっかり考えていけるとよい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 1年生の総合的な学習のテーマが「多様性理解」のため、来年度以降も「I'mPOSSIBLE」を活用した共生学習を進めていく。 • あすチャレ等、本物に触れる機会を設定していく。 • 今年度1年生が学習に取り組んだことで、知多中学校は全学年がボッチャのルールを覚えたことになる。市体育館でボッチャのセットが借りられることも分かったので、パラスポーツを通して学年を超えた交流の場を設定していきたい。